

[第 167 回藤樹人間学塾のご案内]

皆さま

2025 年 10 月



主 催 NPO法人高島藤樹会

- 日 時 2025 年 11 月 1 日 (土) 15時～17 時
- 場 所 藤樹神社社務所(高島市安曇川町上小川 69) ☎0740-32-0638
- テーマ 「藤樹先生に学ぶ人間学」 今回のみ変更
- テキスト 熊沢蕃山著・伊東多三郎現代文訳『集義和書』(中央公論社)p.244～
- 塾 長 田中 清行 (090-1026-7882)

2025 年 10 月 4 日(土)、安曇川公民館で第 166 回藤樹人間学塾を開きました。大津から2名を入れて8名の参加でした(うち初参加1名、女性3名)。

■ テキスト

『中江藤樹・熊沢蕃山』(中公バックス日本の名著)

■ テキストの見出し

「集義和書」巻八 義論の一 五等の人倫と士農工商、日本の天子は一系を輪読し、資料も説明。

■ 配布資料

(1)「まなざし 485 号」、(2)「出逢いが運命を変える」(致知)、(3)那須信孝「生きるとは捧んで燃えてとけること…平澤興先生の生き方」(致知)、(4)田口佳史「天の將に大任をその人に降さんとするや」(致知)、(5)鈴木秀子「ぼくは何かの役にたったのだろうか…やなせたかし」(致知)、(6)横田南嶺「生也全機現」(致知)、(7)NHK こころの時代「闘うガンディー」⑥真理と愛

■ 今日のポイント

- ・ 五等の人倫と士農工商…五等は天子から庶人までの五段階の身分制度。それぞれの身分の中で人倫を行うべし。人間の大道を自認して志の大なる者は士。賢才ならば身分に関わらず尊敬される(蕃山もその一人か)。
- ・ 日本の天子は一系…中国の中華思想の中では、周辺国を野蛮な国とみていたが、日本だけは特別な存在と考えていた。これは天照皇、神武帝の御徳による。そして天子のみがその特別な一系を継いでいくことになった(→昭和20年の太平洋戦争敗戦により人間天皇となった)。
- ・ 生きるとは捧んで燃えてとけること(平澤興)…50 兆個の 1 つ 1 つの細胞の生命が集まりしかも調和を保って一人の人間の生命をつくっている。捧むとは、天地自然(神仏)を単に対象的に捧むのではなく、無限の可能性を秘めた「自己を捧む」ことを根底に置いている。
- ・ ぼくは何かの役にたったのだろうか…私たちは一人残らず人知を越えた大いなる存在によって生かされている。私たちは一人の例外もなく、必要があつて命を与えられた貴重な存在。感謝の念を抱くようになった進行がんの女性の身体からがんが消えた例がある。

■ フリートークング

- ・ 「人生の残りをどう生きるか。発想の転換が必要。出逢うべき人に必ず逢える、には実感」
- ・ 「初参加。皆さんと共に学ぶことで考えが深まる。何のために生きるか考えて今後の人生に生きたい。人は皆、仏性を持っているという言葉が響いた」

などの意見をいただきました。ありがとうございます。

皆で学ぶと議論が深まります。学ぶは愉し！難しいところも資料を用意して分かりやすく解説します。参加費無料です！人間学に関心のある方はどうぞご参加ください。

